

誌上行学講習会

高佐日焯上人

世界、そこで此れからは、今までの暗い世界に對しておもしろい  
う。あります。四聖の心は、表をみて一諸に勉強をいたしましよ

言先うはなづらへ天上心Vのから人です。天上心、これは解りやす  
人うにはこの境地は解らないとでも言われて、いまはすから貧乏  
あめれば財産さあれば誰の味も世界、即ち物質的につ  
極めれば満足した状態のこともありません。それは何か先づそこ  
ただけ嫌な困ったことがありません。それは何か先づそこ  
から入って考へて参ります。

える天上心の地獄心。これは減悲哀心で、肉体的におとろ  
ても人間の寿命は限りがある。金にいかく若さを保つ  
その空しさ、所詮は逃れられない。老衰の事、実を知らず、時、  
さん御承知です。毎日念にこの喜八郎、魚屋から立身出世  
を毛した大金持であり、大倉喜八郎、十歳になっても頭  
の九十になるのめ、毎日念に化粧をする必要はないでしよ

う「と」といふや年をとるとむさくるしくて人さまに  
嫌な感じを持たせるから、こつこつやうって手入れをして  
決して私心を捨て、確かに買うべきではないと答えて、  
あかします。心の為には、確かに買うべきではないと答えて、  
し、減衰悲感を感じて、買うべきではないと答えて、  
で、か減衰悲感を感じて、買うべきではないと答えて、

地、天上心の餓鬼心。これは得物満足心でありまして、土  
入れたと、かいう、品物を得たとか、満足心を入った骨董を手  
り入れたと、かいう、品物を得たとか、満足心を入った骨董を手

天上心の畜生心は得愛満足心。つまり金で女道楽を、  
或は男道楽をするというような満足心の状態でありま  
す。

天上心の修羅心は優越満足心。これは争いではあり  
ますが、別にケンカ論をするのではなくて、人よりも  
自分的に着ている着物が立派である。自分の持ち物が勝  
れ、あります。一種の物質的勝利感といった心理状態  
であります。

天上心の人間心は和楽満足心。これはまあ結構な心  
と、言えましよう。今日は私の誕生日です。皆さん  
にお出で、いたゞいて、パイや合しようとする心という  
の、あります。

豪華版の天上心は行楽満足心。これは楽しみの中  
で、大むづらしいところ、名勝地へ行ってみ、  
出で、美くいな旅館に泊る。女中さんや番頭さん、  
う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足  
心を、う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足  
心を、う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足

天上心の縁覚心は歡樂三昧心。三昧というのは我を  
忘れる、縁覚心は歡樂三昧心。三昧というのは我を  
ちの、持が、う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足  
は、無、持が、う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足  
は、無、持が、う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足

う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足  
う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足  
う、美くいな食べ、この大臣気分を味わう時の満足

以下次号